

子どもたちを一人にさせない

～子どもたちを危険から守るために、あなたにできることは～



市内には、6つの中学校と13の小学校があります。最近、交通事故や子どもたちに関する事件が増えており、通学路も危険になってきています。そんな危険から子どもたちを守ろうと、子どもを持つ親や家族をはじめ、地域のたくさんの方がそれぞれの立場で活動をされていますが、登下校中の子どもたちを危険から守ることは、なかなか難しいのが現状です。しかし、より多くの方が子どもたちに関わり、愛情を持ったまなざしで見守ることにより、そんな危険から子どもたちを遠ざけることができると思います。そのためにも、小さなことからコツコツと続けることが大切です。



地図には市内の中学校の場所()・小学校の場所()と不審者情報が寄せられた場所()に印をつけています。不審者情報は、滋賀県警察本部のホームページ掲載(H18.1～H18.4末)分です。

通学路には危険がいっぱい

自転車や歩行中に交通事故で亡くなった15歳以下の子どもは、平成17年(1月～12月)の1年間で、全国で120人のほり、滋賀県内でも、2人が犠牲になっていました。

市内でも、朝の通勤ラッシュと通学時間帯が重なるところは、常にそのような事故が起こることが考えられます。

また、不審者情報も増加傾向にあり、県警のホームページにも、長浜市内では平成17年(1月～12月)に6件しかなかったものが、今年に入ってから5か月で、すでに12件も寄せられています。



不審者情報のあった平方町地先

地域別に見てみると、旧長浜

市内では、平方町の路上ほか6件、旧浅井町では、大路町の路上ほか3件、さらに、旧びわ町では八木浜町地先で下校途中や遊びから帰る途中の子どもたちが被害にあっています。



下校途中の子どもたち

また、12件のうち、下校途中に被害にあったケースが9件と一番多くなっています。

下校時はとても危険ですが、さらに危険なのは、一人になった瞬間からであり、危険度が一気に高くなります。

市内には、交通量の多い通学路や、子どもたちが一人になる通学路がたくさんあります。今回は、そういった危険な場所や状況から子どもたちを守るために、各地域で取り組まれている活動をいくつかご紹介します。

子どもが好きだから

長浜小学校の校門前で、7年前から毎朝登校する子どもたちの安全を見守っている小西達英さんからお話を伺いました。小西さんは、今年度から「子ども安全リーダー」としても活動をされています。

きっかけは、

「始めたのは7年前、家の前の通学路に長浜赤十字病院の改築の関係で車がたくさん通るようになり、このままでは、子どもたちが危ないと思ったので、自治会や警察とも相談しながら、立番を始めました。それに、孫も小学校に通っていたんでね。」

その後は、

「最初は「おはよう」と声をかけても、知らないおじさんが立っているんだから、なかなかあいさつをしてもらえなかったですね。でも、よほどの用事がない限り、毎朝、交差点に立って「おはよう」と声をかけて、学校から交通安全やあいさつ運動の話をしてもらえないかとの依頼があった時には、子どもたちの前で少し緊張しながら、慣れない話もしました。そんなこともあって、最近で

は「おはよう」とあいさつしてくれる子が増えてきましたよ。」



毎朝、交差点で子どもたちを見守る小西さん

続ける秘けつは、

「立ちだしたら、くせになり、やめられないので、続けているんです。それに、家族や周りの人の理解もないとなかなか続かないですよ。でも本当は、子どもが好きだからだと思っていますよ。」

まずは気づくこと、そして今の自分に何ができるのかを考え、実行していくことが大切なんです。これから体気を付けて、子どもたちを見守ってあげてくださいね。